

2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験 経営学部「英語重視方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際経営学科	96	44	38

(2) 本入学試験の目的

経営学部国際経営学科への入学を第1志望とし、「経営学に強い関心を持ち、高い意欲と目的意識を持って学習を行おうとする者」で、かつ「学部の掲げる人材育成目的・教育目標を理解し、立命館大学経営学部国際経営学科での勉学を強く志望する者」を対象に、英語運用能力により重点をおく入試選抜です。経営学部のアドミッション・ポリシーで定めた人材育成目標を達成し、本選抜による入学者が、国際的な経営を学習し、かつ海外に留学して英語を用いてビジネスを学ぶことを期待しています。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

提出された出願書類（調査書、出願者申告書、英語能力試験証明書および志望理由書）に基づき、①高校在学中の正課、各種活動経験そして国際性、②英語運用能力、③志望動機、をそれぞれ評価しました。

高校在学中の正課は、調査書と出願者申告書をもとに、高校在学中の正課における学習姿勢や成績、課外活動としての各種委員会、部活動、地域活動、国際交流活動、各種表彰を評価しました。英語運用能力は、英語能力試験証明書に基づいて評価しました。志望動機は、国際経営学科で学ぶ意欲や志望動機、大学卒業後のキャリアの見通しについて、互いに関連付けながら、論理的かつ説得的に説明されているかどうか、を評価しました。大学企画への参加や、経営学部の教員の専門分野や教育内容の調査といった、立命館大学経営学部国際経営学科に進学後にどのような学習を行うのかについて、具体的に調べられているかどうかを評価の対象としました。

(2) 第2次選考

第1次選考の合格者に対し、出願書類（主に出願者申告書、志望理由書等）に基づく面接試験を日本語と英語で行いました。面接試験では、高等学校在学中の学習と各種活動経験、国際経営学科を志望した動機・入学後に学びたいテーマ、日本と海外での経営学分野に関する学習計画、国際的視野でのキャリアビジョンを、互いに関連付けながら論理的かつ説得的に説明されているかどうかなどを総合的に評価しました。とりわけ、国際経営学科を志望した動機や入学後に学びたいテーマ、国際的な経営学分野に関する学習の計画、国際的視野でのキャリアビジョンについては、日本語に加えて英語での質疑を行い、実際の英語運用能力を評価しました。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

第1次選考の書類審査では、経営学部国際経営学科で国際的な経営を学ぶために必要な基礎学力や外国語運用能力、国際経営学科での学習意欲が備わっているかどうか、さらに国際経営学科を卒業した後のキャリアについて深く考えられているかどうか、を評価することを目的としていま

す。

具体的には、第1次選考では、提出された出願書類（調査書、出願者申告書、英語外部資格試験証明書および志望理由書）に基づき、①高校在学中の正課（学習面）と各種活動経験・国際性、②英語運用能力、③志望動機について選考を行いました。①については、調査書と出願者申告書をもとに、高校在学中の正課（学習面）における学習姿勢や成績、課外における各種委員会、部活動、地域活動、国際交流活動、各種表彰を評価しています。②については、英語外部資格試験証明書に基づいて評価しています。③については、本学経営学部国際経営学科で学ぶ意欲や志望動機、および大学卒業後のキャリアビジョンを評価しています。これらについて互いに関連付けながら論理的かつ説得的に説明されているかどうかを評価のポイントとしました。

(2) 第2次選考

第2次選考の面接審査では、上記書類審査の資料に基づき、高校での正課や課外活動を通じて、どのように英語運用能力を身につけたのか、英語学習の過程のなかで、どのようにして国際経営を学ぼうとしたのか、具体的に国際経営学科でどのような学習・研究を行うのか、卒業後のキャリアについてどう考えているのかを質疑で確認し、国際経営学科で学ぶ意欲や計画を受験生自身の言葉で説明できるか否かも加えて総合的に評価しました。高等学校在学中の学習と各種活動経験以外は、英語を交えた質疑を行い、その応答の内容によって英語運用能力を評価しました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

在学中の正課については提出された成績証明書やGPAを、各種活動経験や留学経験については成績証明書に記載された委員会活動や部活動での貢献、ボランティア活動の有無を、留学経験については内申書や出願者申告書に記載された海外経験の有無を、それぞれ評価しました。英語運用能力は、提出された外部試験の得点に基づいて評価しています。志望動機については、出願者申告書と志望理由書に書かれた高校での活動と大学入学後、そして大学卒業後のキャリアが互いに関連し、明確な目標や目的があり、それを達成するために経営学部国際経営学科で何をしたいか、説得的に記載されているかどうかを評価しました。

(2) 第2次選考

面接審査では、英語運用能力を測るため、英語での質疑応答を行いました。そこでは流ちょうな英語で会話できることを重視するのではなく、自分の考えを英語で表現できているのかどうか、を評価しました。また、国際経営学科でどのようなことを学び、卒業後にその知識をどのように活かしたいのか、そう思うようになった高等学校での経験や取り組みについて、論理的な展開になっているかどうかを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

志望理由書については、高校での活動と入学後に学びたいテーマとを適切に結びつけて記述できているものが多く見られました。また、卒業後のキャリアビジョンについても、大学で受講予定の授業やゼミ、留学等の経験を通じて、国際的に活躍したいという意欲が具体的に示されているものが多くありました。

出願者申告書については、高校での学習の中で自身が最も力を入れた取り組みや、部活動、留学経験、地域貢献活動など、各自の多様な経験が記載されていました。また、オープンキャンパス等の大学企画への参加や、経営学部教員の専門分野、ゼミの研究テーマについて十分に調査し、入学後の経営学部での学びを具体的に構想できている受験生も見受けられました。国際経営学科に対して高い意欲を有する受験生については、適切に評価されています。さらに、外国の学校での学習経験を有する受験生や、グローバルなルーツを持ちながら日本国内の学校で学んだ受験生については、そうした背景から得られた多様な経験がよく表現されていました。

(2) 第2次選考

面接試験では、出願書類（主に出願者申告書、志望理由書等）の内容に関する質疑を行い、それに対して適切に応答できているかを確認しました。面接を通して、多くの受験生が、国際経営学科を志望した動機や入学後に学びたい内容、卒業後のキャリアビジョン等について、自身の言葉で論理的に説明できている様子が見られました。

面接は日本語と英語を併用して実施しましたが、必ずしも流ちょうな英語表現にこだわるのではなく、自分の考えを英語で的確に伝えようとする姿勢を持ち、落ち着いて受け答えをしている受験生が多く見られました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

志望している学部が「経営学部」、学科が「国際経営学科」であることを強く意識していただきたいと思います。AO入試は「英語重視方式」ではありますが、国際経営学科は「英語を」学ぶのではなく、「英語で」経営学を学ぶ学科です。英語はあくまでツールです。したがって、志望理由としては英語が好きであるということや、留学体験や高校での英語学習のことだけに終始したり、入学できたら大学では「こんなことがしたい」といったことを列記したりしているだけでは不十分です。高校での学習内容や活動経験を踏まえ、語学能力を使って国際経営学科で何を学びたいのかについて、卒業後のキャリアビジョンを関連つけて説明することが重要です。

そのためには、日頃から経営学についての問題意識を高めることが非常に重要です。新聞を読んだり、ニュースを見たり、もしくは自分自身の購買体験など、様々な媒体から情報を得ることができます。そして、疑問に思ったことを調べる習慣を持つことが大切です。特に第1次選考(書類選考)では、その習慣を通じて習得した知識を自分の言葉で論理的にまとめる力がとても大切になります。したがって、基礎学力を反映する日本語の文章能力も本入学試験では試されるということを忘れないでください。

また、本AO入試は「英語重視方式」であるため、英語力が問われているのも事実です。とくに、二次選考の面接試験では、英語での質疑応答があるため、リスニング力とスピーキング力が問われています。そのため、英語の読み書きができるだけでは不十分であり、自分の考えを英語で話し面接官と「対話」できる英語力が必要です。ただし、第2次選考の面接試験では、完璧な英語を要求しているわけではありません。重要なことは「国際経営学科で学ぶにあたり、自分の考えを英語で説明したり、質疑に答えたりする力」であり、たとえ詰まりながらもそれらを実現する能力です。本AO入試の合格者は、留学経験者や語学検定試験の高得点者ばかりということではなく、留学経験のない受験生もいることも参考にいただければと思います。

以上